

「豊かさ」「潤い」「活力」 平成二十一年度 町長施政方針

三月二日から十九日までの会期で行われた、奥出雲町平成二十一年第一回定例議会の開会にあたり、岩田町長が町政運営の基本的な考え、主要施策について説明を行いました。

その内容を要約、抜粋してお知らせします。

五十年に一回といわれる市町村合併、新町発足一周年、私にとつて最後の議会定例会となりました。

旧仁多町長として六期、奥出雲町長として一期、議員の皆様、町民の皆様のご理解とご協力により、その職責を全うすることが出来ましたことに、まずもって衷心より感謝とお礼を申し上げます。

なお、平成二十一年度一般会計予算については、今年が町長、町議会議員の改選期であり、経常分、継続事業と既に計画を約束した事業費の計上にとどめ、一般会計百四十七億一千万円、特別会計六十七億三千三百万円を提案しています。

健康と福祉の町づくり、学校教育と社会教育の推進、行財政運営については、来月号（町長施政方針）に掲載します。



一、活力ある産業の振興

農業振興

本町農業の基幹作物である水稲については、昨年山形県で開催された「第十回全国米・食味分析鑑定コンクール」において、全国から過去最多となる二六〇七点が出品された中で、横田特定農業法人ネットワークが総合部門で二年連続金賞、高尾小学校も特別優秀賞を受賞し、仁多米の良質



さが引き続き高く評価されました。

本年度は「第五回仁多米振興大会」の開催を予定しており、堆肥施用による減化学肥料、減農薬栽培による安全・安心でおいしい米づくりを推進し、「一層の仁多米ブランドの確立、「売れる米づくり」を目指します。

また、仁多米ブランドの中核施設である仁多堆肥センターにおいて、老朽化している

マニアスプレッターを更新し、安定した堆肥の製造散布体制の整備を図ります。

また、三月末には約四億五千五百万円をかけて建設を進めていた「もち加工所」が完成し、今後、高付加価値化によるもち米栽培農家の所得向上と、もち、酒米の実績配分枠による水稲作付面積の拡大を図ります。

「水田経営所得安定対策」については、平成二十一年度において市町村特認により面積要件の緩和が図られ、引き続き集落営農組織の育成、特定農業団体への移行、法人化など組織化の推進、認定農業者の育成など、関係機関と一体となつて取り組みます。

また、生産調整推進のため国から交付される「産地確立交付金」については、引き続き産地づくり対策や担い手育成対策として活用いただきたいと考えています。

制度発足から三年目となる「農地・水・環境保全向上対策事業」については、一億二千万円の交付額を予定しており、地域の特徴ある環境向上対策等の推進を図ります。

また、「中山間地域等直接



畜産振興

景気の低迷から枝肉、子牛価格とも低迷が続く中で、飼料価格は依然高値となつており、畜産農家の経営は非常に厳しい状況で、和牛改良組合等を支援し、引き続き優良牛の生産対策事業を実施、優れた和牛生産に努めます。

また、島根和牛の改良促進にあたっては、全国トップの

鹿児島県産種雄牛の系統も取り入れ、仁多和牛の改良に向け支援を行います。

特産振興

本町の主要品目であるほうれん草、キャベツ、大根、トマト、アスパラ、メロン等を中心に生産振興を図るとともに、消費者の安全志向に対応したエコファーマーの育成を積極的に推進します。

また、転作水田を利用した野菜生産については、仁多特産市、横田だんだん市場など産直市場へ積極的に出荷していただくことで、農業所得の向上を図ります。



国営開発農地島上4団地に設置されたブドウ棚

して頂きました。荒れた農地、耕作放棄地の再生整備補助金を活用しながら利用の促進を図ります。

林業振興

町行分収造林事業と公社造林事業を推進すると共に、「斐伊川水系水源の森づくり事業」を引き続き実施します。

また、全国森林環境税創設促進連盟により要望され、二十一年度二次補正予算、二十一年度予算に計上された切り捨て間伐の個人負担三十割について国が負担し、森林整備や路網整備が出来ることとなり、今後伐期を迎える町有林・町行分収造林地も関係者の同意を得ながら、順次伐採・再造



斐伊川水系水源の森づくりの様子

林を実施するとともに、雇用の場も創出する考えです。

さらに「森林づくり交付金事業」による間伐作業道と林業機械整備を図り、間伐材等の効率的な搬出と利用促進に努めると共に、松くい虫被害木の駆除を目的にした保全松林健全化育成事業を実施します。

山林地籍調査については、新規分として、布勢地区布勢運動公園から佐々木地区の斐伊川沿い、大呂地区山奥地区の奥道横田伯南線沿い、八川地区金川地内の町道金川線沿い、大谷地区雨川地内の町道川西雨川線沿いのそれぞれ一部山林、合計七百十三ヘクタールを予定しています。

商工業の振興

国の緊急経済対策である定額給付金も県内トップの三月二十三日から支給を開始し、また商工会が実施中の特典付き商品券への二十割補助をはじめ、商工会に対し経営改善普及事業等の財政支援を行い、町と商工会との連携を密にし、ながら、地域経済の活性化を推進します。

また、市街地のイメージアップを図るため、飲食店・商店を中心とした個人店への改修・改造費用の一部を助成するとともに、各種商工業事業資金の融資枠を確保するため、の預託を継続して行います。

観光の振興

鬼の舌震については、山林取得、吊り橋遊歩道の辺地計画を今議会に提案し、四月には保存管理計画について、国の審議会を検討されることとなつていきます。

また、玉峰山荘等との連携を図りながら奥出雲観光ツアー、トロッコ列車を活用した観光企画、地域間交流などによる田舎ツーリズム、今年生誕百年を迎える松本清張パネル展や「砂の器」ロケ地ツアー

「などを計画しています。

また、ホッケー場や陸上競技場を活用した合宿の誘致など交流人口の拡大を図ります。

第三セクター

合併後、第三セクターの見直しに着手し、昨年(株)舞茸奥出雲については、その資産を買取るなど旧サンマツシユの負債を整理し、(有)奥出雲椎茸に事業を引き継ぎ、健全化を図りました。

一昨年から研究開発を進めていました、舞茸の新しい種類も開発され、今年一月から自社種園で生産を始め、販売高も増進し赤字経営から利益を計上する企業となりました。

また、(株)アメニティよこたから経営を受け継いだ、(株)道の駅おろちループは、補助金に依存しない経営体制に向け努力していますが、「交流館三国」の改築により、今春オープンする鉄の彫刻美術館や(株)ライブストックの観光牧場などの集客力により、道の駅や三国は健全経営が出来るものと期待しています。

ヴィラ船通山については、過疎債により屋根の雨漏り等の改修工事を実施し、さらな